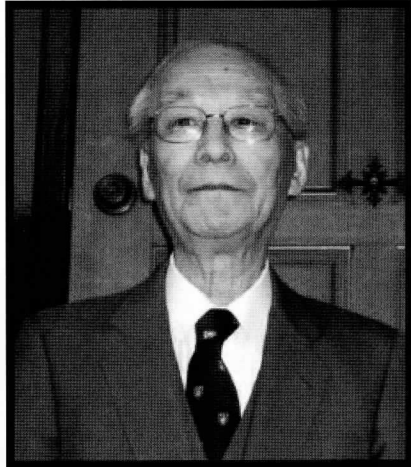


追悼

宮下 政和先生を偲んで



〈ご略歴〉

昭和 2 年 1 月 3 日 生まれ
 昭和 26 年 東京大学工学部精密工学科卒業
 昭和 26 年-昭和 29 年 日本精工
 昭和 29 年-昭和 34 年 東京大学生産技術研究所
 昭和 34 年-昭和 36 年 日立製作所中央研究所
 昭和 36 年-昭和 39 年 Bell&Howell/日本 (日本映画機械)
 昭和 39 年-昭和 57 年 東京都立大学工学部機械工学科
 昭和 57 年-昭和 61 年 シチズン時計, 日進機械製作所,
 昭和 61 年-平成 9 年 足利工業大学機械工学科
 平成 9 年- ナノテック研究所

〈最近の主な著書〉

平成 18 年 9 月 自生発刃形研削技術の加工精度限界と超精密研削技術への道
 平成 21 年 8 月 心なし研削盤の原理と設計
 平成 27 年 8 月 研削盤の原理と設計

〈学会関係略歴〉

平成 3 年 SPIE Fellow (Int. Soc. for Optical Technology) USA
 平成 4 年 精密工学会名誉会員
 平成 7 年 砥粒加工学会名誉会員

本学会名誉会員、宮下政和先生は平成 30 年 3 月 7 日、享年 92 歳でご逝去されました。宮下先生の訃報に、本会員の皆様の驚きと深い悲しみは計り知れません。ここに謹んでご冥福をお祈りいたします。

宮下先生は東京大学第二工学部で、故大越淳先生に学び、卒業研究として故松永正久先生の下で、ラッピング加工の試験装置を試作されました。その後、日本精工藤沢工場に就職され、ローラー生産技術を担当され、センタレス研削盤に出会ったそうです。その仕上げ加工が熟練職人に依存し、加工技術が「科学」となっていないことから、「センタレス研削盤の原理と設計」をライフワークとする決心をされたそうです。

宮下先生は東京大学生産技術研究所、東京都立大学で、センタレス研削における成円機構の解析、研削加工系の動的安定性、びびり振動の抑制対策等の研究を精力的に進め、故米津栄先生と共に現在のセンタレス成円理論の礎を築かれました。またその後、センタレスの理論のみでは精度、生産性の向上は計れないという観点から、研削盤の設計原理を追究され、足利工大での教鞭、研究を通し、工業界への多大な寄与をされました。上述の学問界、工業界への功績は国際的にもみとめられ、SPIE (The International Society of Optical Engineering) での Fellow 受賞がその一例といえます。また

宮下先生は長年に渡る共同研究者、金井彰先生、故大東聖昌氏と数多くの研究論文を發表され、センタレス研削技術、超精密研削盤の開発に輝かしい功績を残されております。宮下先生のライフワークは「心なし研削盤の原理と設計」(コロナ社出版)に集約されております。

宮下先生は科学者、生産技術研究者として、本会員の諸先生方と深い交流があるばかりでなく、世界の多くの科学者、技術者と深い交流をなされていました。イギリス、NPL の Albert Franks 博士、イギリス、Warwick 大学の David Whitehouse 博士、アメリカ、Timken 社、元社長、Robert Leibensperger 氏との深い交流は良く知られております。

宮下先生の研究にかける熱い情熱には多くの人が心を打たれ、「いかに研究が大切か、素晴らしいか」を多くの若い研究者に語りかける姿をはっきり思い出すことができます。どれだけの若い人が宮下先生の言葉に元気づけられたことでしょうか。岩下 (旧姓 鳥羽) 広門氏、森谷卓氏など、宮下先生の下から多くの若い研究者が巣立っており社会へ多くの寄与をしております。

宮下先生、本当にありがとうございました。改めて、心よりご冥福をお祈りいたします。

(元 Timken, Director and Senior Scientist,
AFT 代表者 橋本福雄)